

経済学部(経済経営学科)の三つのポリシー

【 学士(経済経営学) 】

大学の目的 (学則 第3条)		学部(学科)の教育研究上の目的	
<p>本学は、地域と世界に向かって開かれた大学として、生命科学、自然科学と人文社会科学を総合した特色ある国際水準の教育及び研究を行い、人間尊重の精神を基本に高い使命感と創造力のある人材を育成し、地域と国際社会に貢献するとともに、科学、芸術文化、人間社会と自然環境との調和的発展に寄与することを目的とする。</p>		<p>個人を尊重する共生の精神を基礎に、地域と世界に向かって開かれた大学として、社会科学の諸分野を総合した特色ある学術研究を行うとともに、経済社会の制度やメカニズムに対する深い理解と関連する社会科学諸分野に及ぶ幅広い知識を備え、持続可能な国際・地域社会の構築に貢献できる人材を養成する。</p>	
ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー	
<p>【卒業認定・学位授与方針】 経済学部では、本学部の目的に基づき所定の課程を修め、以下に示す「幅広い知識」、「専門的学識」、「問題発見・解決力」、「社会貢献力」、「コミュニケーション能力」を身に付けた者に、学士(経済経営学)の学位を授与する。</p>	<p>【教育課程編成方針】 経済学部では、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた5つの能力を身に付けさせるため、経済学・経営学を中心とした社会科学分野に、データサイエンス分野も含めた体系的な学修が可能となるよう教育課程を編成する。</p> <p>【教育課程実施方針】 ・1年次においては、幅広い知識を備えた人材を育成するために、教養教育を実施する。社会科学の幅広い基礎の習得のため、経済、経営、法学、データサイエンスの「入門科目」を必修科目として、加えて経済、経営の「共通基盤科目」を選択必修科目として実施する。 また、少人数型学習の導入教育として初年次ゼミナールを実施する。</p> <p>・2年次から、学生の関心や希望する進路に応じて「公共政策」、「企業経営」、「経済データサイエンス」のいずれかのプログラムに所属させる。</p> <p>・2年次には「経済系基盤科目」、「経営系基盤科目」、「データサイエンス系基盤科目」を実施し、いずれのプログラムにおいても社会科学ならびにデータサイエンスの基盤科目を共通的な知識として身に付ける。また、理系学部との連携による文理融合科目を実施し、幅広い知識と実践的応用力を持った課題解決能力を養成する。</p> <p>・2年次以降は、選択したプログラムについてより深く学び、複雑な社会を自分自身で考える力を身に付けさせるため、専門科目(プログラム基礎科目・プログラム発展科目)を幅広く体系的に実施する。 また、領域横断的に学んで知識と視野を広げるために、他プログラムの基礎科目・発展科目の履修を卒業要件の一つとする。 加えて、コミュニケーション能力を身に付けさせるため、必修科目として、2年次ゼミナールを実施する。</p> <p>・3年次では、より専門的な知識とともに、ディスカッション能力やプレゼンテーション能力など社会人として必要なコミュニケーション能力を獲得させ、社会に貢献できる力を養成するため、2年次に引き続き3年次ゼミナールを必修科目として実施する。</p> <p>・4年次においては、より高い水準の問題発見力・解決力を身に付けさせるため、4年次ゼミナールを必修科目として実施するとともに卒業論文を完成させる。</p>	<p>【入学者受入れの方針】 経済学部では、社会科学の分野に興味・関心を持ち、次のような能力を身に付けて積極的に地域・国際社会に貢献する意欲がある人材を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決能力や創造力 ・幅広い知識や専門的知識の修得 ・データサイエンスの知識・技術の活用力 ・他者及び多様な文化を持つ者とのコミュニケーション能力 <p>【入学者選抜の基本方針(入試種別とその評価方法)】 一般選抜(前期日程) 大学入学共通テストでは、高等学校卒業レベルの理解力を備えた人を選抜する。 本学では「英語」又は「数学」を課す。「英語」では、英文の理解力と英語による表現力を、「数学」では、データサイエンスを学ぶための数理的・論理的思考力を評価する。</p> <p>一般選抜(後期日程) 大学入学共通テストでは、高等学校卒業レベルの理解力を備えた人を選抜する。 本学では「総合問題」を課し、社会科学的思考力と文章表現力を評価する。</p> <p>学校推薦型選抜、帰国生徒選抜、社会人選抜 本学では「総合問題」を課し、社会科学的思考力及び文章表現力を評価する。 また、「面接」を課し、社会問題への関心度、表現力、積極性及び判断力を評価する。</p> <p>私費外国人留学生選抜 日本留学試験では、日本語能力、論理的思考力及び数学の基礎学力を評価する。 本学では「小論文」を課し、社会科学的思考力及び文章表現力を評価する。また、「面接」を課し、社会問題への関心度、表現力、積極性及び判断力を評価する。</p> <p>【入学前に学習すべきこと】 高等学校までに学ぶ国語、地理歴史・公民、数学、理科、外国語について、十分な基礎学力を身に付けておくこと。更に、創造力、責任感、コミュニケーション能力及び問題発見能力を身に付けておくこと。</p>	
【学修成果の到達目標】		【学修内容、学修方法及び学修成果の評価方法】	
幅広い知識	<p>【学修成果】 社会、自然、文化に関する幅広い教養を持った知識人として、多様な文化的・歴史的背景を持った地域、社会について、その理解に常に努める姿勢を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教養教育科目、入門科目、基盤科目、他プログラムの基礎科目、文理融合科目の単位修得</p>	<p>【学修内容】 幅広い知識を身に付けるため、人文・自然諸科学の知識と語学を学修する。 入門科目及び基盤科目を学修し社会科学の基礎を身に付けた上で、社会科学の諸領域を横断した知識を幅広く身に付けるため、他プログラムの基礎科目を学修する。 幅広い知識と実践的応用力を持った課題解決能力を養成するために、理系学部との連携による文理融合科目を学修する。</p> <p>【学修方法】 履修計画をしっかりと立てた上で、講義形式の授業によって、幅広い知識を効率よく学修する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆及び期末試験等により、到達度を客観的に評価する。</p>	
専門的学識	<p>【学修成果】 経済学・経営学を中心とした社会科学諸分野の高度な知見に加えて、経済・ビジネスデータを統計的手法を用いて分析する能力を併せ持つことで、社会の発展・繁栄に貢献するプロフェッショナル(職業人)として行動する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 基盤科目、プログラム基礎科目、プログラム発展科目、ゼミナールの単位修得</p>	<p>【学修内容】 専門的学識を身に付けさせるために、基盤科目ならびに各プログラムにおけるプログラム基礎科目・プログラム発展科目を体系的に学修する。</p> <p>【学修方法】 履修計画をしっかりと立てた上で、講義形式やパソコンを用いた演習形式の授業によって、専門知識を効率よく学修する。ゼミナールにおける能動的学修によって、高度な専門知識を主体的に学ぶ。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 ゼミナールについては、専門的知識修得のための課題への取り組み及び成果発表等により、客観的に評価する。 卒業論文は、審査によって評価する。</p>	
【求める資質・能力】		【求める資質・能力】	
		<p>幅広い知識を獲得するために必要な基礎学力と、学ぼうとする意欲。</p>	
		<p>専門的学識を獲得するために必要な基礎的学力と数理的・論理的思考力や英語能力、あるいは入学後にこれらを身に付けようとする意欲。</p>	

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
【学修成果の到達目標】		【学修内容, 学修方法及び学修成果の評価方法】	【求める資質・能力】
問題発見・ 解決力	<p>【学修成果】 高い専門性と分野横断的な幅広い知識、データ分析力を、柔軟・的確な洞察力・判断力のもとで活用し、社会やビジネスが抱える多様な問題の解決を図ることで、新たな価値を創造する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 入門科目、基盤科目、プログラム基礎科目、プログラム発展科目、他プログラムの基礎科目、他プログラムの発展科目、ゼミナール、卒業論文の単位修得</p>	<p>【学修内容】 高度な専門知識を基礎とする問題発見・解決力を修得するために、1年次の社会科学およびデータサイエンスの入門科目及び共通基盤科目から、2年次以降の各系基盤科目や各プログラムの基礎・発展科目まで体系的に学ぶ。 洞察力・分析力・問題解決能力を修得するために、ゼミナール、卒業論文において個別の研究テーマを深く学修する。</p> <p>【学修方法】 講義形式と演習形式を中心としつつ、アクティブラーニングやPBL型学修も取り入れ、幅広い知識に裏付けられた問題発見・解決力の涵養を図る。</p> <p>【学修成果の評価方法】 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容及び期末試験等により、学修の到達度を客観的に評価する。 ゼミナールについては、専門的知識修得のための課題への取り組み及び成果発表等により、客観的に評価する。 卒業論文は、審査によって評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 国内外において社会が抱える多様な問題と、その解決策を学ぼうとする意欲。</p>
社会貢献力	<p>【学修成果】 経済社会の一員であることを認識し、幅広い知識、客観性および倫理観を備え、自らの行動を律することで社会的利益のために貢献する能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教養教育科目、基盤科目、プログラム基礎科目、プログラム発展科目、ゼミナール、その他科目の単位修得</p>	<p>【学修内容】 広い視野から社会における自己の役割や他者への責任を果たす能力を身に付けるため、人文・社会・自然科学や外国語を学ぶ。 社会人としての責任感を身に付けるため、基盤科目やプログラム基礎・発展科目、ゼミナールの履修や交換留学を経験する。 その他科目のインターンシップ等によって、社会における経済の仕組みを実践的に学び、専門的学識をもって社会に貢献する力を身に付ける。</p> <p>【学修方法】 1年次に集中して教養教育科目や外国語を学ぶことによって、初年次より幅広い視野で社会における自己の役割を考える。 インターンシップや交換留学など体験・経験型の学修によって、地域や国際社会、企業組織における自己の役割や社会貢献への意識を醸成し、社会貢献力を高める。</p> <p>【学修成果の評価方法】 科目の特性に応じて、試験、レポート及び成果物等により、修得した社会貢献力の達成度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 経済学部で学んだことを社会で活かし、広く社会の要請に応えようとする意欲ならびに社会において責任を果たそうとする意欲。</p>
コミュニ ケーション能力	<p>【学修成果】 幅広い知識と専門的知見に基づき、他者との議論において、明確な問題意識から結論に至る論理を構築し、自己の考えをプレゼンテーションする能力を身に付けている。そのための手段として、情報機器によるデータの処理、通信ネットワークを利用したコミュニケーション、また外国語による情報の獲得及び発信を行う能力を身に付けている。</p> <p>【到達指標】 教養教育科目、入門科目、ゼミナールの単位修得</p>	<p>【学修内容】 教養教育科目において外国語を学修することにより、国際社会におけるコミュニケーション能力を養う。 社会や企業組織におけるコミュニケーションに必要な論理的思考力を身に付けるために、社会科学およびデータサイエンス分野の入門科目を学修する。 ゼミナールにおいて演習形式で輪読、チーム研究、研究発表などを体験し、プレゼンテーション能力や議論の技法を身につける。</p> <p>【学修方法】 入門科目を初年次に開講することによって、社会科学およびデータサイエンス分野で求められる論理的思考力を早期に身に付けさせる。 ゼミナールにおける能動的学修によって、実践的な議論・プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力を身に付ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】 試験等により到達度を客観的に評価する。</p>	<p>【求める資質・能力】 自らの考えを表現する能力と、他者と積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲。</p>